

令和5年度 第1回がんの集学的治療専門部会(Web会議)

2023/7/6 18時30分～19時30分@四国がんセンター on Web

議事録

<議題>

1. 事務連絡

・令和5年度の年間スケジュールについて。8/5(土)に専門部会報告会の開催を予定している。第2回専門部会は四国がんセンターを会場として集合形式での開催を検討しており、候補日は2/3(土)、2/17(土)。コロナ以前のように各専門部会後に全体での報告会の開催を検討している。集合会議とならない場合には、昨年同様WEB会議の開催となる。決定次第お知らせする。

・PDCA部会の組織を見直し、各専門部会の活動では対応できない協議会の事業に対応する幹事会WGの設置が検討されている。幹事会WGに参加したい人や推薦があれば、事務局までお願いします。

2. 「多地点合同メディカル・カンファレンス」について 四国がんセンター 上月

多地点合同メディカル・カンファレンスは、国立がん研究センターが中心となって、全国のがん診療連携拠点病院など約30施設で、web講演会が普及する10年以上前から定期的で開催している合同カンファレンスである。現在はWEBexを用いたオンライン形式で開催しており、医師・多職種に向けては月1～2回木曜日の17:30～18:30、看護・薬剤・臨床検査・放射線の各部門に向けては毎月第3金曜日の17:30～18:30に開催している。今年度より協議会メーリングリストを活用して開催案内をしているので、ご利用下さい。また、医師・歯科医師の先生には、日本がん治療認定医機構の単位が取得できる講演もある。今年度は7/27、8/24、9/14の講演3回すべての受講が必要となっている。単位取得について詳細をお知りになりたい先生は、ご連絡下さい。

3. 令和4年8月1日付「がん診療連携拠点病院の整備について」への対応について

1) 新たなMLの作成 四国がんセンター 青儀 愛媛大学 薬師神先生

昨年8月1日に出されたがん診療連携拠点病院の整備指針において、次の記載がある。

2 診療体制 (1) 診療機能

⑥ それぞれの特性に応じた診療等の提供体制

ア 希少がん・難治がんの患者の診断・治療に関しては、積極的に都道府県協議会における役割分担の整理を活用し、対応可能な施設への紹介やコンサルテーションで

対応すること。

当がんの集学的治療専門部会のネットワークを通じて、情報共有し対応可能な施設へのコンサルテーションをおこなうことの出来るメーリングリストを作成している。個々の症例がどのように紹介されたなどのアウトカムを記録としてまとめていき、共有できる運用としたい。参加が未だの施設の方は、まずメーリングリストに参加頂けるよう施設内でご検討をお願いします。愛媛県内の拠点・推進病院の皆さんに参加して頂き、患者さんのためになるよいワーキングにしましょう。

なお、本メーリングリストの構築・運用については8/5の役員会でも議題として提案します。

2)がんゲノム医療について 現状と講演会の案内 四国がんセンター 仁科

昨年8月1日に出されたがん診療拠点病院の整備指針において、次の記載がある。

(2)都道府県全体のがん医療等の質の向上のため、次に掲げる事項を行い、都道府県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできる体制を確保すること。

① 地域の実状に応じて、以下のアからケを参考に医療機関間の連携が必要な医療等について、都道府県内の各拠点病院等及び他のがん診療を担う医療機関における役割分担を整理・明確化し、その内容を関係者間で共有するとともに広く周知すること。

ケ がんゲノム医療

引き続き、部会内でしっかりと情報を周知させて頂きたい。

四国がんセンターにおけるエキスパートパネルについて紹介するが、連携病院間での情報共有がしっかりおこなわれていることで、実施件数は年々増加している。治験・治療に結びついた件数についても11%と、全国的にも低くない状況である。

情報共有のための定期的な勉強会の開催についても検討したい。これまで企業サポートにより愛媛県で年3~4回開催しているがんゲノム医療セミナーを、今回から愛媛県がん診療連携協議会がんの集学的治療専門部会が共催し、開催していく。愛媛大学のがんプロフェッショナル養成インセンティブ講習会としても認められているセミナーとなっており、今後は、メーリングリストを通して案内するので、参加をお願いします。

3)治験情報の共有 四国がんセンター 仁科

昨年8月1日に出されたがん診療拠点病院の整備指針において、次の記載がある。

5 相談支援及び情報の収集提供 (3)情報提供・普及啓発

④ 参加中の治験についてその対象であるがんの種類及び薬剤名等を広報すること。

治験情報の共有について、四国がんセンターにおいては、実施中の治験・医師主導治験のより詳細な内容をホームページに記載するようブラッシュアップしたことは、前回の部会でお示した。上記の整備指針における広報では、“患者さんから見てもわかりやすい治験の情報提供”が求められている。指針中にある対象疾患や薬剤名はもとより、登録中であることの進捗状況について定期的にアップデートをおこなうこと、また、それぞれの病院のサイトで書き方がさまざまではどの治験かわからない、ということがあるので、臨床試験 ID(jRCT 等)が

わかるような広報をすることが必要である。愛媛県では、愛媛県がん情報提供サイト『がんサポートサイトえひめ』に、「治験・臨床試験案内」として、愛媛県内の病院のリンク先を集めたページを作成して情報を紹介しているが、それぞれのサイトでは、対象疾患、薬剤名、ID、進捗状況がないことが多い。この点を愛媛県として改善していくことを提案したい。今後、各施設の担当者の方へはご相談しますので、ご検討をお願いします。

新しく作成したメーリングリストを用いても、治験情報をアップデートした、などの情報について共有していけるとよい。

4. 薬薬連携に関する報告

四国がんセンター 亀岡

令和2年の診療報酬改定において、外来がん化学療法の質向上の観点から、医療機関では連携充実加算、薬局では特定薬剤管理指導加算が追加されている。以前の部会では、保険薬局の特定薬剤管理指導加算についてのアンケート結果の報告をおこなったが、今回は、医療機関として拠点・推進15施設に対するアンケート調査をおこなった。回答は15施設のうち14施設で、加算の実施は8施設であった。算定を継続していく上で苦慮している点、また検討する上で問題となった点においては、保険薬局を対象とした研修会を年1回開催することや薬剤師・管理栄養士の確保についての回答が多かった。また、自由記載として他施設の取り組みやノウハウなど聞いてみたい点として、四国がんセンターを例に、外来化学療法室における運用や算定に対する時間の効率化、レジメンの公開や研修会の実施、などについて紹介した。

〈質問〉

・以前、10年前との比較というデータがあったが、その後どうなっているか。大変貴重なデータであり、この10年で愛媛県の保険薬局のモチベーションがどう変わったかということがよくわかる貴重なデータなので、是非発表をして頂きたい。(愛媛大薬師神先生)

⇒ 学会発表はおこなった。前回のアンケート調査でも特定薬剤管理指導の加算については調査をおこなったが、2022年のアンケート実施ではまだ加算が浸透していない時期での調査であったので、特定薬剤管理指導の加算については、時期をおいて再度調査をおこないたい。引き続き活動していきます。(四国がん亀岡)

⇒ アンケート調査は数年後にまた実施して、行動変容がどのようにおこったかなどを検証しPDCAサイクルを回していきたい。今回時点の論文化は、急ぎ実施します。(四国がん青儀)

・調剤薬局から送付されてくるトレーシングレポートの県内統一化について

松山赤十字病院 橋本薬剤師

保険薬局では、医療機関ごとにレポートの様式が異なっていると、都度入手しないといけないうことや書き方に慣れるのが大変などの問題がある。今回、がん薬物療法のものに限定はされているが、愛媛県病院薬剤師会が愛媛県薬剤師会と共同して、県内でトレーシングレポートの様式を統一する方向でワーキングが立ち上がっており、検討をすすめている。進捗については今後ご報告します。

5. 歯科医師の参加について 四国がんセンター 古川

昨年 8 月 1 日に出されたがん診療拠点病院の整備指針には医科歯科連携の推進や歯科医療職を対象とした講習会の開催等についても記載されている。昨年度より、愛媛県歯科医師会、愛媛県歯科衛生士会と共催しながら講習会を開催しており、今年度も 12 月～3 月の期間に企画している。医師・看護師・薬剤師の皆様も聴いて頂ける内容を企画しているので、参加をお願いします。

6. 放射線治療 FAX 紹介簡易版について 四国がんセンター 濱本、青儀

簡易版の FAX 紹介用紙を昨年度に作成した。使用実績はまだあまりないが、今後病院間のやりとりで利用頂き、改善点などのご意見を伺いたい。FAX 紹介用紙の内容については、各施設でも文書管理などの部門に確認を依頼することが必要となると思われるが、施設内で調整頂き、トライアルにご協力をお願いします。

7. 愛媛県曝露調査について 四国がんセンター 青儀、橋田

毎年実施しているモニタリング調査を今年も夏～秋に予定している。オプションとして、尿中 CPA などスタッフの曝露調査もできるようになったので、準備出来次第ご案内します。

8. がん薬物療法多職種チーム研修について 四国がんセンター 青儀、橋田、福島

「実践から学ぶがん薬物療法多職種チーム研修」について、外来化学療法室を中心としたチーム研修が昨年度から始まった。医師・看護師・薬剤師・MSW の多職種チームで、がん化学療法をおこなううえでの問題点を共有し、がん薬物療法を受ける患者を支援するためのチーム作りや副作用マネジメントを実現できるように学ぶ研修となっている。昨年度は 3 施設の参加があったが、大変得るものはあったと思う。今年度、次年度と、全拠点・推進病院が参加して頂けるよう引き続き募集をおこなうので、参加をお願いします。